

附属機関(審議会)等 報告書

令和 2年 7月 20日

芦屋市自治会連合会会長 様

報告者氏名 友廣



審議会等の 名称	令和2年度 第1回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 (任期:令和 2年 4月 1日 ~ 令和 3年 3月 31日)		
開催日時	令和 2年 7月 20日(月) 15時00分 ~ 16時30分		
出席者氏名	委員長 酒井 達哉 副委員長 柳生 加代子 委員 渡辺 史恵 委員 極楽地 愛子 委員 小西 絵理香 委員 中田 伊都子 委員 友廣 剛 社会教育部長 田中 徹 生涯学習課長 長岡 良徳 生涯学習課課長補佐 中寫 健太 生涯学習課 海士部 香苗 青少年育成課長 近田 真 青少年育成係長 山崎 元輝 青少年育成課 上田 裕之		
開催場所	芦屋市役所	交通費	0円
〔 主な内容 〕 1 会議次第 (1) 開会 (2) 委嘱状及び任命書の交付 (3) 教育長あいさつ (4) 委員自己紹介, 事務局職員自己紹介 (5) 委員長, 副委員長の選出 委員長1名・副委員長1名 (6) 議題 放課後プラン事業概要について (ア) 令和元年度放課後プラン利用状況等について (イ) 令和2年度の取組みについて (ウ) 運営委員会開催回数及び日程について (エ) その他 (7) 閉会 2 配布資料 ・ 放課後プラン事業について(資料1) ・ あしやキッズスクエアについて(資料2) ・ 令和2年度の取組みについて(資料3)			

〔 会議主旨 〕

子どもたちが、放課後や週末に小学校の施設を活用して、様々な活動ができるような環境を整えるための会議

〔 事前準備 〕

現在、小学校に通っている子どもたちの保護者に、子どもたちの放課後の過ごし方について、聞き取りを行った。

○南芦屋浜の保護者の意見

- ・そもそも学校が遠く、校庭開放やキッズスクエア、コミスクなどを利用したくても、利用できない。南芦屋浜に学校ができることが最低限必要ではないか、という意見が多かった。
- ・公園はあるが、ボール遊びが禁止など、規制が厳しく自由にのびのび遊ぶ場所は少ない。

○放課後児童クラブ（学童保育）の保護者の意見

- ・放課後子ども教室（キッズスクエア）やコミスクを利用した後に、放課後児童クラブに帰ることができない問題が、何年待っても解決できない。
- これらの聞き取った内容を、会議の中で発言させていただき、課題として、市に取り組んでいただくように進言する。

〔 会議当日の質疑応答 〕

< 委員 >

校庭開放やキッズスクエアのコロナ対応は十分できているか？

< 回答 >

子どもたちの検温や体調管理に気を付けながら、十分配慮して運営している。

< 委員 >

キッズスクエアと学童保育の連携が記載されているが、非常にありがたいことである。

< 友廣 >

南芦屋浜からは学校が遠く、校庭開放やキッズスクエア、コミスクなどを利用したくても、利用できない。対応策はあるのか？

< 回答 >

潮見小学校の利用者は、シーサイドからと南芦屋浜とは、参加数がほぼ同数である。全体数からの割合では少ないかもしれないが、多くの方に参加いただいている。
また、山手や朝日ヶ丘でも奥池などの遠方から利用している方もいらっしゃる。

< 友廣 >

南芦屋浜に学校ができることが最低限必要ではないか

< 回答 >

回答なし

< 友廣 >

今回のキッズスクエアと学童保育の連携は、試験的に、潮見と浜風となっているが、それはなぜか？

< 回答 >

キッズスクエアに参加する子どもが一時的に、いなくなるような事故が時折起こっている。その都度、探すなどの対応が出てしまっている。シーサイド地域はほかにならべて、交通などの危険が少ないと思われるため、ここで試験的に運用して安全面のノウハウを蓄積したい。

<友廣>

この学童保育の連携は、キッズスクエアだけが対象か？コミスクはどうなるのか？

<回答>

コミスクは対象ではない。

<友廣>

なぜ、コミスクは対象ではないのか？

<回答>

放課後児童クラブもキッズスクエアも青少年育成課の所管で行っているため、今回調整の上連携が取れた。

<友廣>

キッズスクエアでの連携だけでは、不十分である。過去の議論が全く生かされていない。

<委員>

高学年の子供や中学生が、公園でボール遊びもできないような社会となっている。学校の校庭をもっと自由度の高い利用にしてほしい。

<回答>

子どもたちが安全に過ごせるように、校庭開放日を設け、ルールを決めて運営している。理解いただきたい。

〔感想〕

この委員会は、国の事業としては「新・放課後子ども総合プラン」、県の事業としては「地域と学校の連携・協働体制構築事業」に基づいており、本来、学童保育(放課後児童クラブ)と放課後子ども教室(キッズスクエア)とが連携されているはずのものである。ところが、芦屋市では、「芦屋市放課後プラン事業(子ども教室型放課後プラン事業)」として、学童保育(放課後児童クラブ)を除いて議論を進めており、そのため、両者の連携(両事業間の子供の移動)に関して、遅れた対応となってきた経緯がある。

今回は、保護者の10年来の要望(学童保育とキッズスクエアの連携)が試験的に行われ、1歩進んだかのような説明がなされたが、浜風小と潮見小の2カ所のみで、不十分でしかない。

あたかも問題解決のような表現で説明されていたが、キッズスクエアのみが対象で、コミスクなど他の行事に行った場合は、学童保育には帰ることができない事が、再度質問することで、発覚した。

会議の進め方として、委員の質問に対し、事務局が回答しているだけで、他の委員の考えや会長・副会長の考え等のアドバイスや助言が全くない。会を運営する会長、副会長の力量に疑問を感じた。

〔次回予定〕

2021年2月12日(金)

上記のとおり、報告します。

<確認者> 芦屋市自治会連合会 会長・助野光男

